

# 世 界 史

(問 題)

2011年度

< H23053412 >

## 注 意 事 項

1. 問題冊子および記述解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. 受験番号および氏名は、試験が開始してから、記述解答用紙の所定欄（2か所）には受験番号と氏名を、マーク解答用紙の所定欄には氏名のみを正確にでいねいに記入すること。  
受験番号は正確にでいねいに記入すること。読みづらい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

|         |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 数 字 見 本 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

5. マーク欄ははっきり記入すること。また、訂正する場合は、消しゴムででいねいに、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

|         |                                     |                          |                          |
|---------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| マークする時  | <input checked="" type="radio"/> 良い | <input type="radio"/> 悪い | <input type="radio"/> 悪い |
| マークを消す時 | <input type="radio"/> 良い            | <input type="radio"/> 悪い | <input type="radio"/> 悪い |

6. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 中国史に関する以下のA～Eの文章を読み、設問1～9について解答を一つ選び、その記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

A 前8世紀初、①周が東方に遷都したところから諸侯の独立的傾向が強まり、有力諸侯は周王にかわって号令を下すようになった。この時代は孔子が編纂したとされる『春秋』という書籍にちなんで春秋時代とよばれる。そののち前5世紀末には多くの諸侯が争う戦国時代となり、②「戦国の七雄」とよばれる強国が抗争をくり返した。このような大きな変動の背景には、農業や商業の発達に加えて学問や思想の新発展があったとされている。

設問1 下線部①について、その遷都の地の説明として誤りを含むものはどれか。

- イ 漢を復興した後漢の光武帝は、その都を置いた。
- ロ 曹操が皇帝に即位すると、魏の都に定められた。
- ハ 北魏の都が移されると、多くの仏寺が建立された。
- ニ 唐朝では西の長安に対して東都と称された。

設問2 下線部②について、「戦国の七雄」の説明として誤りを含むものはどれか。

- イ 臨淄に都した齊は東方の大国で、その討滅をもって秦王政の天下統一が完成した。
- ロ 西方の秦は咸陽に都を置き、東方の六国と和戦をまじえた外交政策を展開した。
- ハ 魯の都である曲阜は孔子の生誕地で、そこは儒教の中心地として知られている。
- ニ 邯鄲に都を置く趙は、晋を三分した家臣の一人が周王から諸侯と認められた国である。

B 秦末の抗争が終息し、③劉邦が建国した漢帝国の基礎固めの時代が過ぎると、武帝は充実した国力を背景にして積極的な外征をおこなって国威を輝かせた。このような発展は民族意識を高めて歴史への関心をよびおこし、④『史記』が撰述された。

設問3 下線部③について、建国当初の漢帝国の説明として正しいものはどれか。

- イ 高祖は遠征先の白登山付近で頭曼单于が率いる匈奴軍に包囲され、通婚と貢納とを条件に助命された。
- ロ 高祖は法家思想を国家統治の根本に据えるとともに、甲骨による占いによって儒教官僚を統率した。
- ハ 高祖は長安周辺の直轄地には州県制をしき、同姓の一族や異姓の功臣を王侯に封建する郡国制を併用した。
- ニ 高祖が崩御すると、呂太后とその一族である外戚の呂氏が専横を極め、劉氏の政権は危機におちいった。

設問4 下線部④について、『史記』から『三国志』にいたる4篇の歴史書はのちに「前四史」と称されることになる。各書の説明として正しいものはどれか。

- イ 司馬遷の『史記』は、ササン朝ペルシアの建国者であるアルダシール1世を「安息」と記している。
- ロ 班固の『漢書』は、倭の使節が朝鮮の楽浪郡と臨屯郡に歳時をもって来たり献見したと記している。
- ハ 范曄の『後漢書』は、西域都護班超が派遣した甘英は大秦国に到達せず、引き返したと記している。
- ニ 陳寿の『三国志』は、邪馬台国の女王卑弥呼および倭王讃の使節が朝貢したことを記している。

C 五胡十六国時代から南北朝時代にいたる分裂を收拾した隋が短命におわると、中国は唐によって統一された。太宗は唐の支配体制の整備に力を注いだため、その治世は貞観の治とたたえられる。唐の領域は高宗のときに最大となり、広大な征服地を支配するため、⑥各地に都護府が置かれた。

設問5 下線部⑤について、その時代の説明として正しいものはどれか。

- イ 北魏の太武帝は、仏教を崇拝して平城の郊外に雲崗石窟を造営した。
- ロ 梁の章懷太子は、『文選』を編纂して周代以来の名詩・名文を集めた。
- ハ 西域出身の仏図澄や鳩摩羅什は、布教や仏典の漢訳をおこなって大乘仏教を広めた。
- ニ 劉裕は東晋より禅譲を受けて皇帝に即位し、宋の都を建康に置いた。

設問6 下線部⑥について、後世、フランス領となった地域に設置されたものはどれか。

- イ 安東都護府    ロ 安南都護府    ハ 安西都護府    ニ 北庭都護府

D モンゴル高原を支配したウイグルが衰退すると、そのもとで遊牧・狩猟生活をしていた契丹族が自立して遼を建国した。この国は中国東北方面や河北・山西方面に勢力をのびし、宋との間に遼淵の盟をむすぶなど東アジアの強国に成長した。

設問7 下線部⑦について、遼淵の盟の説明として正しいものはどれか。

- イ この盟約は、遼の聖宗と宋の真宗が結んだ講和条約で、宋は兄、遼は弟の礼をもって親交するとしたため、これ以後、しばらく両国間に平和が保たれた。
- ロ この盟約は、宋が遼に対して毎年絹20万匹、銀10万両を贈ることによって和平を実現したものである。しかし、その締結を推進した宰相の秦檜は、後世、きびしく批判された。
- ハ この盟約は、遼の皇帝を主、宋の皇帝を従とするもので、遼に対して宋は臣下の礼をとらねばならぬため、宋にとってきわめて屈辱的なものであった。
- ニ この盟約は、燕雲十六州は現状のまま遼に帰属するとしたため、宋と遼の領土は変更されず、淮河と秦嶺山脈をむすぶ線が両国の境界とされた。

E 遼の滅亡後、モンゴル高原ではトルコ系・モンゴル系の諸部族に統一の気運が高まり、テムジンがモンゴル帝国を建国した。この帝国は中国から、西南アジア・ロシアにいたる空前の大帝国に成長したが、やがて大ハン位をめぐる対立によって諸ハン国の抗争が激しくなり、元と4ハン国に分裂した。

設問8 下線部⑧について、大ハン位についた以下の4人に関する説明のうちで誤りを含むものはどれか。

- イ チンギス=ハンは、ホラズム朝や西夏を征服したのち、東方にもどって金を討滅した直後に陣没した。
- ロ オゴタイ=ハンは派遣したバトゥは、リーグニッツでドイツ・ポーランド諸侯の連合軍に大勝した。
- ハ モンケ=ハンはフビライおよびフラグに遠征を命じ、前者は大理を、後者はアッバース朝を征服した。
- ニ フビライ=ハンは、大都に遷都して国号を元と定め、日本に遠征軍を送るとともに南宋を滅ぼした。

設問9 下線部⑨について、4ハン国の説明として正しいものはどれか。

- イ チャガタイ=ハン国はアルマリクを首都として中央アジアで勢力を強めたが、14世紀に入ると南北2国に分裂した。
- ロ イル=ハン国はイスラーム教を国教としたガザン=ハンの治世下に全盛期を迎え、イラン=イスラーム文化が成熟した。
- ハ キプチャク=ハン国はヴォルガ川流域のサライに都して、15世紀前半に在位したウズベク=ハンの時代に全盛を迎えた。
- ニ オゴタイ=ハン国のハイドゥはチャガタイ=ハン国やイル=ハン国と同盟して、元の世祖と40年にわたる抗争を続けた。

Ⅱ 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

古代ギリシア・ローマ世界は、通常、近代ヨーロッパ世界の淵源とされる。それは、古代ギリシア・ローマ世界が一つのまとまりをもつものと捉えられ、近代ヨーロッパ世界の価値のいくつかを生み出したからである。

古代ギリシアは、①ミケーネ文明に代表されるように、元来は王政をとっていたが、前8世紀頃から王政を廃し、少数の貴族が政治を独占するようになっていった。古代ローマ人も、自らをトロイアの子孫と称し、エトルリア人の王の支配に服していたが、前6世紀末には王政を廃し貴族寡頭政を採った。けれども、両地域とも、平民による政治的平等の要求が高まり、②民主政実現の道が開かれた。とりわけアテネにおいて直接民主政が実現された。この民主政という価値観が近代ヨーロッパ世界の価値観の淵源となる。だが、両世界とも③奴隷が存在し、とりわけ古代ローマにおいては大規模な奴隷反乱も生じた。

やがて、ギリシア世界では、幾多の戦争の結果、市民団の団結が失われ民主政が衰退していく。④前4世紀後半にはマケドニアがその勢力を強め大帝国を形成し、専制君主制的支配に基づくヘレニズム時代となる。同様に、ローマ世界も、前2世紀末からのいわゆる⑤「内乱の1世紀」を経て、前1世紀末には帝政に移行する。この過程においてローマはヘレニズム世界のほとんどをローマの属州とし、ここに古代世界はローマ帝国として一つの政治的・地理的まとまりを達成する。近代ヨーロッパ世界を構成する要素であるラテン文化とゲルマン文化の融合の端緒も、前1世紀におけるローマによるガリア遠征に認められる。

古代ギリシア・ローマ世界が生んだ文化も、近代ヨーロッパ世界の価値観の淵源となるものである。とりわけ重要であるのが、ローマ帝政初期に成立した⑥キリスト教である。キリスト教は中世・近代のヨーロッパ世界にとっての最大の精神的支柱となった。また、自然科学・建築技術・⑦哲学・歴史叙述・⑧文芸等、様々の学芸が発展した。こうした古代文化は、中世に始まる⑨幾度かの古典復興を経て近代世界に受け継がれていった。

設問1 下線部①に関し、ミケーネ文明について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 伝説上の王ミノスの名から、ミノス文明とも呼ばれる。
- イ 小王国に分立していたため抗争が続き、各国家は防衛のため巨大城塞を築いた。
- ウ この文明で使用された線文字Bは、イギリス人ヴェントリスによって解読された。
- エ 役人組織を使って農民から農産物を貢納として徴収する税制が敷かれた。

設問2 下線部②に関し、古代ギリシア・ローマにおいて民主政の実現に向かって採られた方策について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア アテネでは、ドラコンが慣習法を成文化し貴族による法の独占を破った。
- イ アテネでは、クレイステネスが僭主の出現を防止するために陶片追放の制度を創設した。
- ウ ローマでは、リキニウス・セクスティウス法により公有地の占有に上限が設けられた。
- エ ローマでは、ホルテンシウス法により、元老院の承認を伴う場合のみ、平民会の決議は国法とされた。

設問3 下線部③に関し、古代ギリシア・ローマの奴隷について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア アテネでは、個人所有の家内奴隷が多く、全人口の3分の1を占めていた。
- イ スパルタでは、ベリオイコイと呼ばれる国有奴隷が農耕労働を強制されていた。
- ウ シチリアでは、前2世紀後半に2度に及ぶ大規模な奴隷反乱が生じた。
- エ イタリア半島では、前1世紀前半にトラキア出身の剣奴スパルタクスが奴隷反乱を起こした。

設問4 下線部④に関し、マケドニアの勢力拡大とヘレニズム時代について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア フィリッポス2世は、カイロネイアの戦いでアテネ・テーベ連合軍を破り、全ギリシアを制圧した。
- イ アレクサンドロス3世は、イッソスの戦いでダレイオス3世を破り、アケメネス朝ペルシアの勢力を大きく削減した。
- ウ セレウコス朝シリアは、西アジアの大部分を支配したが、バルティアやバクトリアが自立したため前3世紀に滅亡した。
- エ プトレマイオス朝エジプトは、ヘレニズム世界の中心として繁栄したが、オクタウィアヌスにより前1世紀に滅ぼされた。

設問5 下線部⑤に関し、「内乱の1世紀」について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア グラックス兄弟は自作農の創設によるローマ市民軍の再建を目指したが、元老院の反撃に会い、兄は殺害され弟は自殺した。
- イ イタリア半島のローマ同盟市の市民は、同盟市戦争の結果、ローマ市民権を獲得した。
- ウ 平民派のマリウスと閥族派のスラは、無産市民を集めて私兵軍団を構成し、相争った。
- エ 2回にわたる三頭政治は、元老院の権威を復興させる目的で行われたが、内部対立のため、いずれも瓦解した。

設問6 下線部⑥に関し、古代ローマ時代のキリスト教について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア パウロは、キリスト教を迫害する立場から回心し、首都ローマでもキリスト教の伝道活動を行った。
- イ ディオクレティアヌスは、ローマの伝統的神々への信仰と皇帝崇拝を強化するため、キリスト教徒への大迫害を行った。
- ウ コンスタンティヌスは、ミラノ勅令を発して、キリスト教をローマ帝国の国教とした。
- エ ネストリウスは、イエスの神性と人性を分離する説を唱えたが、この説はエフェソス公会議で異端とされた。

設問7 下線部⑦に関し、古代ギリシア・ローマの哲学者について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ヘラクレイトスは、万物の根源を変化自体に見出し、変化の象徴を水とした。
- イ デモクリトスは、万物の根源を均質不変の原子と主張し、原子論的唯物論哲学の祖とされる。
- ウ セネカは、『幸福論』等の著作をもちネロの師であったが、ネロによって自殺に追い込まれた。
- エ マルクス＝アウレリウス＝アントニヌスは、五賢帝の1人であるが、ストア派の哲学者として『自省録』を著した。

設問8 下線部⑧に関し、古代ギリシア・ローマの詩人とその作品について適切ではない組み合わせを以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア アイスキュロス ——『アガメムノン』
- イ エウリピデス ——『オイディプス』
- ウ ウェルギリウス ——『アエネイス』
- エ ホラティウス ——『叙情詩集』

設問9 下線部⑨に関し、古典復興の動きについて明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア カロリング＝ルネサンスは、カール大帝の保護・奨励によるもので、イギリスから招かれたアンセルムスによるラテン語の普及等が行われた。
- イ 12世紀ルネサンスは、商業の展開・十字軍の遠征等を通じてのイスラーム世界との交流によって、古代の学問がヨーロッパに流入したことに基づく。
- ウ イタリア＝ルネサンスは、オスマン帝国の脅威から逃れるため東ローマ帝国の学者たちがイタリアに亡命したことも、その成立の要因である。
- エ 14世紀以降のルネサンスは、権力者の保護下にあったため貴族的性格を帯び、既存の社会体制を批判する力とはならなかった。

Ⅲ ヨーロッパとオスマン帝国の民族・文明の衝突や抗争に関するA・Bの文章を読んで、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

A ヨーロッパは、14世紀後半から15世紀後半にかけての時代に、中世から近世（近代）への転換期をむかえた。それ①までの中世的な領主制や教会制度が破綻をきたし、戦乱や伝染病の流行による経済的な危機に直面したが、一方でルネサンスや大航海時代の幕開けによって新しい近代的な政治や社会を形成しつつあった。同じころ、東方ではオスマン帝国というイスラーム国家が台頭し、ヨーロッパの脅威となった。オスマン帝国は、X朝に仕えていたオスマン＝ベイによって13世紀末に小アジアに建国されたのち、たび重なる戦争により14世紀後半にはヨーロッパの東部地域に進出したが、東方との戦いに敗れて、一時滅亡の危機に直面した。しかし、メフメト2世の時代に勢力を挽回し、1453年ついにコンスタンティノープルを征服して、③ビザンツ帝国を滅ぼした。

16世紀にはいると、セリム1世の進出ののち、スレイマン1世の時代にオスマン帝国は最盛期となり、1529年には、ウィーンを包囲してヨーロッパ諸国を恐怖に陥れ、地中海の制海権を手中にした。オスマン帝国は、④東方的な政治体制をとり、独特な制度を取り入れて、ヨーロッパ諸国と対抗した。1571年のレパント沖の海戦でスペインに敗れてからも、オスマン帝国はヨーロッパの東方にいぜんとして大きな勢力を持続けた。

B 17世紀にヨーロッパは、ふたたびオスマン帝国の侵略をうけ、1683年にはウィーンが包囲された。しかし、この企てが失敗に終わると、これは逆にヨーロッパがオスマン帝国に対して守勢から攻勢にかわる転機となった。⑤絶対主義や主権国家体制をおしすすめて近代化を図りつつあったヨーロッパ諸国が、オスマン帝国を圧迫し始め、1699年の

Y 条約では、オーストリアはハンガリー・トランシルヴァニアなどをオスマン帝国に割譲させた。

さらに、従来から南下政策をおしすすめていたロシアが、オスマン支配下の黒海沿岸に進出した。18世紀後半になると、オーストリアやロシアからの圧迫が次第に強くなり、オスマン帝国の領土は縮小の一途をたどった。19世紀には、バルカン半島に民族独立運動が起こり、⑦オスマン帝国内部でも諸制度の改革が実施されたが、十分な成果をあげるにはいたらなかった。1875年、ロシア＝トルコ戦争が勃発すると、オスマン帝国とバルカン地域がヨーロッパ列強の帝国主義政策の目標となり、バルカンは「ヨーロッパの火薬庫」とよばれて、20世紀の国際的な危機を生み出すことになった。

設問1 下線部①に関連して、中世的な領主制や教会制度、戦乱や伝染病について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 ヨーロッパの封建制度は、ローマの恩貸地制度とゲルマンの従士制に起源があるといわれる。
- 2 ローマ＝カトリック教会は、ペテロを継ぐとされる教皇を頂点としたピラミッド型の階層組織をもち、教会は農民から十分の一税をとりたてた。
- 3 フランスでカペー朝が断絶し、ヴァロワ朝がたつと、イギリスのエドワード1世が王位継承権を主張したため、これをきっかけに百年戦争が起きた。
- 4 黒死病（ペスト）が西ヨーロッパにもたらされ、14世紀中期に最初の大規模な流行があったが、フランスでは同じころジャックリーの乱が起きた。

設問2 下線部②に関連して、14・15世紀のオスマン帝国の戦争について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 ムラト1世はコソヴォの戦いで、セルビア・ボスニアなどのバルカン半島のスラヴ勢力を破った。
- 2 バヤジット1世はアンカラの戦いで、カージャール朝に敗れ、捕虜となった。
- 3 バヤジット1世はニコポリスの戦いで、ハンガリー王ジギスムントを中心とするバルカン諸国・フランス・ドイツ・イギリスの連合軍を破った。
- 4 ムラト1世は、アドリアノーブルをビザンツ帝国から奪取してオスマン帝国の首都とした。

設問3 下線部③に関連して、ビザンツ帝国について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 ユスティニアヌス帝は、ヴァンダル王国、東ゴート王国を征服し、国内においては、ハギア（セント）＝ソフィア聖堂の建立に力をそそいだ。
- 2 ビザンツ皇帝レオン（レオ）3世は、8世紀前半に聖像禁止令を出し、これを機に教会の東西分裂が進んだ。
- 3 ビザンツ帝国は、7世紀以降、帝国の領土をいくつかの軍管区に分け、その司令官に軍事・行政の権限をあたえるプロノイア制をしいた。
- 4 ビザンツ帝国の美術では、ドームとモザイク壁画で装飾されたビザンツ様式の教会建築に特色があらわれている。

設問4 下線部④に関連して、オスマン帝国について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 オスマン帝国ではイクター制をとり、土地の徴税権を軍人・官僚にあたえ、その俸給額にみあう金額を農民・都市民から徴収させた。
- 2 16世紀のオスマン帝国はフランスと同盟し、フランス商人に領内での居住と通商の自由を認めるカピチュレーションという恩恵的措施を認めた。
- 3 オスマン帝国はデウシルメという制度によって、キリスト教徒の子弟をイスラーム教に改宗させ、教育・訓練をして要職に採用した。
- 4 17世紀初期のオスマン帝国は、チューリップ時代という文化的な爛熟期をむかえた。

設問5 下線部⑤に関連して、17世紀のヨーロッパ諸国の制度や事件などについて述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 フランスではアンリ4世によってブルボン朝がはじめられ、1598年のナント勅令によって、新教の信仰の自由が認められた。
- 2 イギリスのエリザベス1世は、「一般祈祷書」をはじめて制定し、イギリス国教会の礼拝・祈祷の統一を図った。
- 3 スペインのカルロス1世は、カール5世として神聖ローマ皇帝に選出された。
- 4 オランダの独立が、ウェストファリア条約で正式に認められた。

設問6 下線部⑥に関連して、17・18世紀のロシアの政策や出来事について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 ピョートル1世は、西欧化をおしすすめ、北方戦争でスウェーデンを破り、ニスタット条約で、バルト海へ進出した。
- 2 18世紀前半に、ドン＝コサックの首領ステンカ＝ラージンが、農民反乱を起した。
- 3 エカチェリーナ2世は、クリム＝ハン国をオスマン帝国からうばい、東方では日本に使節ラクスマンをおくった。
- 4 18世紀後半に、コサック貧農出身のプガチョフが、農民反乱を起した。

設問7 下線部⑦に関連して、19世紀におけるオスマン帝国の諸改革について述べた事項が古いものから時代順に並んでいるものを次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 イェニチェリの全廃 → タンジマート（西欧化改革）の開始 → ミドハト憲法の発布 → 青年トルコの結成
- 2 タンジマート（西欧化改革）の開始 → イェニチェリの全廃 → ミドハト憲法の発布 → 青年トルコの結成
- 3 イェニチェリの全廃 → タンジマート（西欧化改革）の開始 → 青年トルコの結成 → ミドハト憲法の発布
- 4 タンジマート（西欧化改革）の開始 → イェニチェリの全廃 → 青年トルコの結成 → ミドハト憲法の発布

設問8 

|   |
|---|
| X |
|---|

 と 

|   |
|---|
| Y |
|---|

 に入る適切な語の組み合わせを次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 サファヴィー——カルロヴィッツ
- 2 ルーム＝セルジューク——カルロヴィッツ
- 3 サファヴィー——ウィーン
- 4 ルーム＝セルジューク——ウィーン

IV 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

古くはムスリム商人によって東アフリカやサハラで奴隷貿易が行われたが、16世紀以降、新大陸やカリブ諸島でプランテーション経営がさかんになると、奴隷貿易は西アフリカへ拠点を移し、ヨーロッパの奴隷商人によって膨大な数のアフリカ人が大西洋をわたり、過酷な労働に従事させられた。

17世紀初頭には、北アメリカのイギリス植民地にはじめて黒人奴隷が移送され、南部プランテーションにおいて奴隷の需要が高まると、この地で奴隷制は急速に拡大していった。1776年に「万人の平等」をうたったアメリカ独立宣言が**b**出されたが、黒人の人権に言及されることはなかった。

とはいえ、18世紀後半以降、人権思想や自由主義思想の高まりにより、合衆国ではオハイオ以北の地域で奴隷制が禁止され、かつて多くの奴隷商人を送り出したヨーロッパ諸国においても、奴隷貿易や奴隷制はじょじょに廃止されていった。<sup>c</sup>合衆国では1860年代の南北戦争を経て、ようやく奴隷解放が実現された。<sup>d</sup>

しかし、欧米諸国における奴隷制の廃止が「万人の平等」に直結したわけではなかった。黒人に対する差別意識は根強く、合衆国南部では奴隷解放後、K・K・Kなどに代表される反動的な動きがみられた。他方、19世紀後半のヨーロッパ諸国は、アフリカ大陸で帝国主義的な覇権争いを繰り広げ、先住民から土地を奪い、彼らに強制労働や兵役を課すなど、奴隷制さながらの非人道的な圧政を行った。<sup>e</sup><sup>f</sup>

20世紀に入り、第二次世界大戦終結後、アフリカ諸国はヨーロッパ列強から次々と独立を達成した。アメリカ合衆国もまた、1950年代・60年代の公民権運動によって「黒人問題」にある程度の解決をみた。<sup>g</sup>黒人差別の最後の牙城とされ

た南アフリカ共和国のアパルトヘイトも20世紀末にようやく廃止された。しかし、黒人差別に限らず、世界各地で人種差別問題は歴然と存在し続けている。人びとの人種意識がどのような歴史的経緯で形成されたのかを知ることは、現代の人種問題を考える上で重要であろう。

設問1 ムスリム商人に関する以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ① ムスリム商人は、アフリカ人をアラブやペルシアに向けて家内奴隷や軍人奴隷として売買した。
- ② ムスリム商人は、アフリカにおける経済交易だけでなく、アフリカのイスラーム化にも大きな影響力をもった。
- ③ アフリカ東岸のキルワ、マリンディ、モンバサなどの海港都市は、ムスリム商人によるインド洋交易で栄えた。
- ④ ムスリム商人の奴隷貿易は19世紀まで続き、アメリカ人宣教師リヴィングストンがその根絶を図った。

設問2 アメリカ独立宣言の内容に含まれないものを以下の中から一つ選びなさい。

- ① イギリス国王批判
- ② 基本的人権の主張
- ③ 州権主義の表明
- ④ 革命権の主張

設問3 合衆国ではオハイオ以北の地域で奴隷制が禁止されたとあるが、1865年の全面的な奴隷解放までの合衆国に関する以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ① 1810年代には、南部連盟を脱退したヴァージニア州が奴隷制を禁止した。
- ② 1820年代からアメリカの解放奴隷がアフリカに入植し、リベリア共和国を建設した。
- ③ ジャクソン大統領の専制を批判するホイッグ党は、奴隷制問題で内部分裂した。
- ④ 1850年代には、キリスト教的人道主義の立場から奴隷制を批判する『アンクル・トムの小屋』が反響をよんだ。

設問4 奴隷貿易や奴隷制はじょじょに廃止されていったとあるが、イギリスとフランスに関する以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ① イギリスでは、ジョージ3世治下に奴隷貿易が禁止された。
- ② イギリスでは、グレイ内閣の下で奴隷解放法が制定された。
- ③ フランスでは、フランス革命前にハイチの奴隷制が廃止された。
- ④ フランスでは、第二共和政の下で全フランス領の奴隷制が廃止された。

設問5 帝国主義的な覇権争いに関する以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ① 帝国主義は、原料供給地や過剰資本の投資先の確保という経済的側面だけでなく、先住民に対する偏見や人種差別を前提とする思想的側面をともなった。
- ② 1884～85年にベルリン会議が開催され、奴隷貿易の禁止などが定められる一方、列強諸国によるアフリカ分割と植民地支配の確立をうながす協定が結ばれた。
- ③ ドイツでは、とりわけ重化学工業界、巨大銀行、軍部、民間の植民地団体などが「世界政策」に大きな影響力をもった。
- ④ イタリア王国は、教皇領の併合によってローマ教皇と対立を続ける一方、アフリカではエリトリア、ソマリランド、エチオピアを獲得した。

設問6 奴隷制さながらの非人道的な圧政を行ったとあるが、アフリカ先住民はこれに甘んじていたわけではなく、数々の抵抗運動を展開した。以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ① エジプトのウラービーは立憲革命をめざし、イギリス支配に対して民族運動を率いた。
- ② スーダンのムハンマド＝アフマドは「救世主」を意味するマフディーと称し、フランス軍と戦った。
- ③ ギニアの民族運動家サモリ＝トゥーレはイスラーム国家を建設してフランス支配に抵抗した。
- ④ 南アフリカ東岸のズールー族は、ブール人とイギリス軍の侵入に対して武装蜂起した。

設問7 1950年代・60年代の公民権運動に関する以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ① 1961年に就任した民主党のケネディ大統領は、福祉の拡大をはかり、黒人の人種差別廃止運動にも理解を示した。
- ② 公民権運動は、1964年のトンキン湾事件を機に本格化したベトナム戦争に対して世界的に広まった反戦運動と結びついた。
- ③ ジョンソン大統領は公民権法を成立させ、「偉大な社会」計画を発表して、差別や貧困など内政問題に積極的に取り組んだ。
- ④ 人種だけでなく、宗教や性別に基づく差別の禁止をうたった公民権法は、キング牧師の暗殺など多大な犠牲を払った後、成立した。

設問8 南アフリカ共和国のアパルトヘイトに関する以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ① 1880年代、イギリスの植民地相として南アフリカ戦争を起こしたセシル＝ローズは、アパルトヘイト推進に熱心であった。
- ② 1910年にイギリスの自治領として成立した南アフリカ連邦は、南アフリカ共和国の人種政策の基盤をつくった。
- ③ 南アフリカ共和国のアパルトヘイトは、人口登録法・集団地域法・先住民土地法はじめ、多くの法律によって実行されていた。
- ④ 国際的に孤立していた南アフリカ共和国は、黒人との対話を進めたデクラーク政権によって1991年にアパルトヘイトを撤廃した。

V アヘン戦争以来苦難の道を強いられてきた中国であるが、いまや世界経済を牽引していくほどの経済大国になろうとしている。しかし、その道のりは決して平坦なものではなかった。中華人民共和国成立以降の激動に満ちた歴史の流れを、下記の語句（順不同）を用いて、200字以上250字以内で記述しなさい。なお、句読点、数字は1字に数え、所定の語句には必ず下線を付しなさい。

劉少奇      第二次五カ年計画      改革開放      土地改革

〔以下余白〕



